

日本気象協会 2025 年 春の花粉飛散予測(第 2 報) ～2 月上旬に福岡などで飛散開始 大阪・東京は 2 月中旬から～

一般財団法人 日本気象協会(本社:東京都豊島区、理事長:渡邊 一洋)は、2024 年 12 月 5 日(木)に全国・都道府県別の 2025 年春の花粉(スギ・ヒノキ、北海道はシラカバ)飛散予測(第 2 報)を発表します。
また、詳細な情報を、「2025 年春の花粉総飛散量 予測資料」として販売します。

◆2025 年 春の花粉飛散予測のポイント

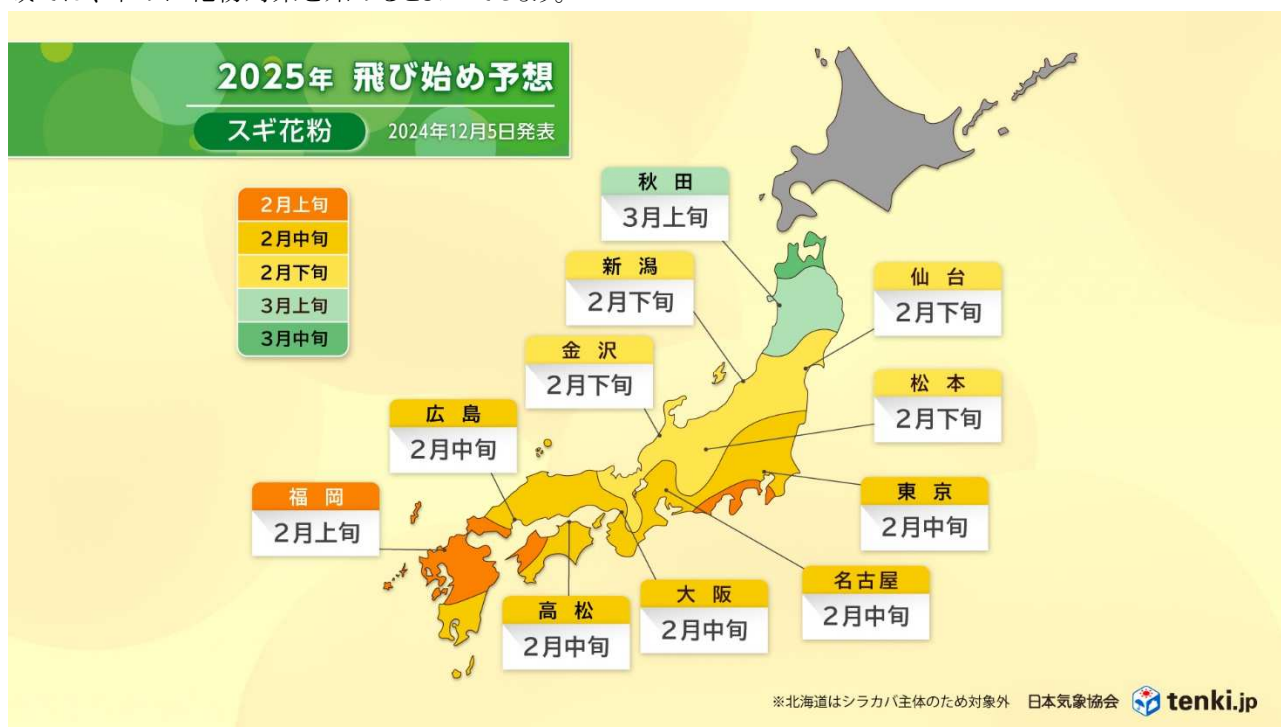
- ・2025 年のスギ花粉シーズンは例年並みの時期にスタート
- ・飛散量は、広い範囲で例年より多く、四国・中国・近畿は例年の 2 倍以上の所も
- ・前シーズン(2024 年)に比べ、九州から近畿と東北南部などで 2～8 倍に

1. 2025 年 スギ花粉の飛散開始時期

2025 年のスギ花粉の飛散開始時期は例年並みでしょう。2 月上旬には九州や、四国・中国・東海・関東の一部で、2 月中旬には関東以西の広い範囲でスギ花粉が飛散開始となる見込みです。北陸と東北南部は 2 月下旬、東北北部は 3 月上旬から中旬にスギ花粉シーズンがスタートするでしょう。

スギの雄花は、初冬の冷え込みが厳しいと休眠打破が順調に進み、休眠から目覚めた後は、暖かいほど開花が早くなる傾向があります。今シーズンの冬は、12 月はじめは暖かかった地域でも冷え込む日が続くようになり、この先 2 月にかけて気温はほぼ平年並みに推移する見通しです。スギの雄花の休眠打破はおおむね順調に進み、休眠から目覚めた後は、寒さの和らぐ日が現れると順調に開花すると予想します。このため、九州から東北では、スギ花粉は例年並みの 2 月上旬から 3 月中旬に飛散開始するでしょう。

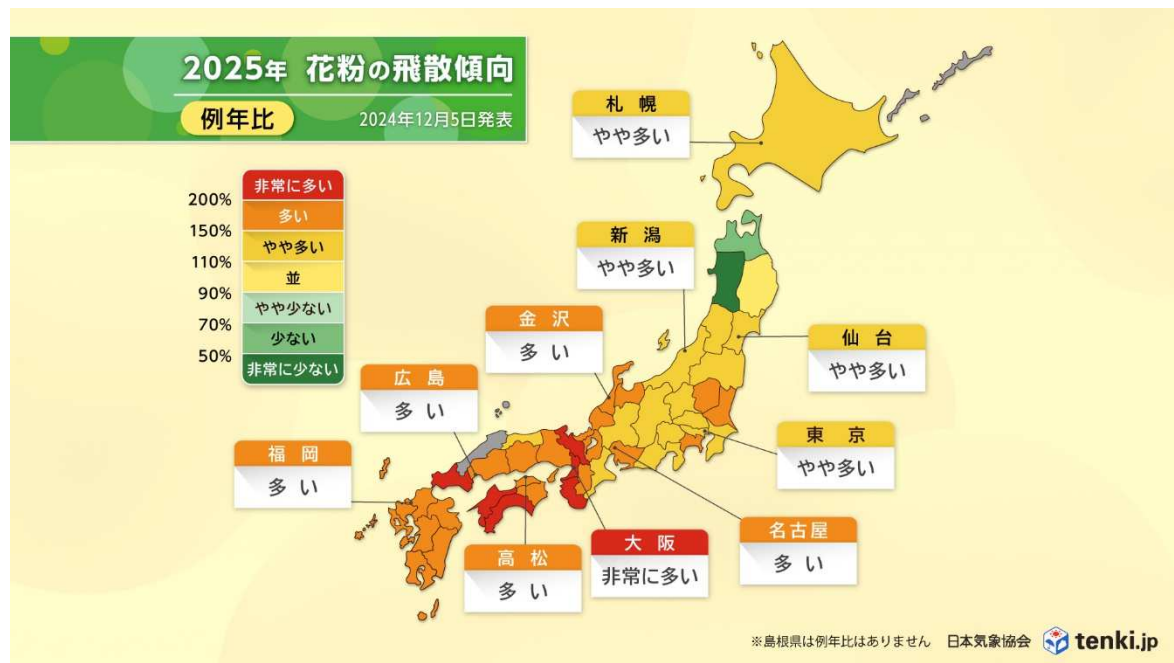
スギ花粉は、飛散開始と認められる前からわずかな量が飛び始めます。2 月上旬に飛散開始が予想される地域では、早めに花粉対策を始めるとよいでしょう。



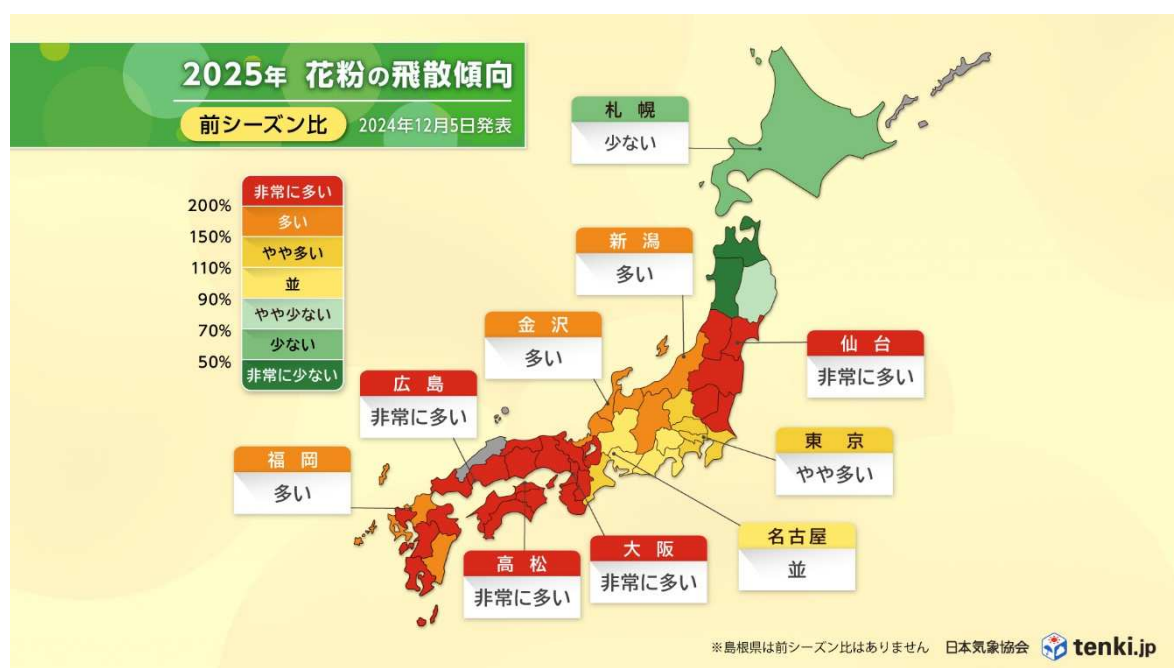
※飛散開始日とは、1 平方センチメートルあたり 1 個以上の花粉を 2 日連続して観測した最初の日

2. 2025 年春の花粉飛散量予測

＜例年比＞2025 年春の花粉飛散量は、例年（過去 10 年の平均）に比べると、九州から北海道にかけてのほとんどの地域で多く、四国・中国・近畿は非常に多い所もあるでしょう。東北北部は例年より少ない見込みです。



＜前シーズン比＞2025 年春の花粉飛散量は、前シーズン（2024 年）と比べると、九州から近畿と、東北南部は非常に多く、北陸と関東甲信も多い傾向です。東海は前シーズン並み、東北北部と北海道は少ないでしょう。九州から近畿と、東北南部などでは 2024 年に比べて大幅に増加する見込みです。花粉症の方は万全な対策を行ってください。



2025年 各地域の花粉飛散傾向

地 方	例年比		前シーズン比		2024年 夏の気象(6～8月)	
					気温	日照時間
北海道	やや多い	130%	少ない	60%	かなり高い	多い
東 北	並	100%	やや多い	130%	かなり高い	多い
関東甲信	やや多い	130%	多い	160%	かなり高い	多い
北 陸	多い	150%	多い	180%	かなり高い	多い
東 海	多い	150%	並	100%	かなり高い	かなり多い
近 畿	多い	190%	非常に多い	380%	かなり高い	かなり多い
中 国	多い	170%	非常に多い	440%	かなり高い	かなり多い
四 国	非常に多い	210%	非常に多い	840%	かなり高い	かなり多い
九 州	多い	170%	非常に多い	270%	かなり高い	かなり多い

2024年12月5日発表

日本気象協会 

3.花粉飛散量予測の根拠

(1) 前年(2024年)夏の気象条件

花粉の飛散量は、前年夏の気象条件が大きく影響します。気温が高く、日照時間が多いと花芽が多く形成され、翌春の飛散量は多くなる傾向があります。2024年の夏は猛暑となり、花芽の形成に好条件な「高温・多照」という気象条件が、九州から北海道まで、ほぼ揃ったと考えられます。

(2) 前シーズン(2024年)春の花粉飛散量

花粉の飛散量は、前年春の飛散量が少ないと増え、多いと減少する傾向があります。前シーズン(2024年)春の花粉飛散量は、九州から近畿と、北陸から東北南部では例年を下回り、関東甲信も例年並みか少ない傾向でした。一方、東海と東北北部や北海道は、例年を上回りました。前シーズン(2024年)は花粉飛散量が抑えられた地域が多かったことから、2025年は気象条件が揃えば飛散量が増加する地域が多いと考えられます。

(3) スギ雄花の花芽調査

日本気象協会がおこなっている花芽調査では、この秋のスギ雄花の花芽の量は、四国、近畿、東海で、例年より多い傾向であることが確認されています。

また、植物や森林の研究者と開催する研究会では、関東でも例年と同じくらいか例年より多いことが報告されています。



スギ花芽調査 岐阜県関ヶ原町 2024年11月17日撮影



(4) 予測根拠のまとめ

2024 年の夏は猛暑となり、花芽の形成に好条件な「高温・多照」という気象条件が九州から北海道にかけて揃いました。一方、花粉の飛散量は、前年春の飛散量が少ないと増え、多いと減少する傾向があります。2024 年春は花粉飛散量が抑えられた地域が多かったことから、2025 年春は 2024 年に比べ飛散量が増加する地域が多いと考えられます。

これらのことから 2025 年春の花粉飛散量は、例年に比べて、九州から北海道にかけてのほとんどの地域で多く、非常に多い所もあるでしょう。東北北部は 2024 年春の飛散量が非常に多かったことと、夏に日照時間が少ない時期があったことが影響し、例年より少ない見込みです。前シーズン(2024 年)に比べると、九州から近畿と東北南部は非常に多く、北陸と関東甲信も多い傾向です。東海は前シーズン並み、東北北部と北海道は少ないでしょう。

今回発表する花粉飛散量の予測は、2024 年 9 月 26 日(木)に発表した「日本気象協会 2025 年 春の花粉飛散予測(第1報)」の内容を花芽調査の結果などを考慮して修正しています。東海、関東などの予測を一部修正しました。

【花粉の種類について】

九州から東北はスギ・ヒノキ、北海道はシラカバ花粉の飛散量を表します。

【飛散量に関する言葉の説明】

非常に多い	: 例年(前シーズン)の 200%以上
多い	: 例年(前シーズン)の 150%以上 200%未満
やや多い	: 例年(前シーズン)の 110%以上 150%未満
例年(前シーズン)並	: 例年(前シーズン)の 90%以上 110%未満
やや少ない	: 例年(前シーズン)の 70%以上 90%未満
少ない	: 例年(前シーズン)の 50%以上 70%未満
非常に少ない	: 例年(前シーズン)の 50%未満

例年	: 過去 10 年(2015~2024 年)の平均値
前シーズン	: 2024 年シーズンの飛散量

【気象に関する言葉の説明】

平年	: 1991~2020 年の平均値
----	-------------------

◆日本気象協会の花粉飛散予測とは

日本気象協会は 1990 年からスギ花粉の飛散予測を発表しています。日本気象協会の花粉飛散予測は、前シーズンの花粉飛散結果や気象観測値などの気象データ、および花芽の現地調査の結果などをもとに、全国各地の花粉研究会や協力機関からの情報をふまえて予測しています。

・本情報の無断での法人利用(プレスリリースでの引用や販促目的使用など)はご遠慮いただいております。

商品 PR など法人利用をご検討の際はお問合せフォーム(<https://www.jwa.or.jp/contact/>)からご連絡をお願いします。